



花矢図書館の変遷

花矢図書館は、向い側に花岡公民館、近くには歴史深い鳥潟会館があります。図書館としては、ちょっと小さめな平屋の建物ですが、春には花岡川沿いの桜が図書館を包み込んでくれます。当館に所蔵されている資料の中から、「花矢図書館の変遷」について『花岡のはなし』、大館市史第3巻などより抜粋しながら簡単に紹介したいと思います。

❖ 「花岡町立図書館から大館市立花矢図書館へ」

昭和8年4月、旧【花岡町立図書館】として誕生し、設立当時は花岡町役場階上を図書室兼閲覧室としました。その後、何度か移転もありましたが、昭和30年3月花矢町発足のため、【町立花矢図書館】と改称します。昭和39年7月には、花岡公民館内に併設、昭和40年1月、同和鉱業株式会社花岡鉱業所から図書約5000冊をもって「鉱山文庫」が移管されました。その2年後、花矢町を編入合併し、【大館市立花矢図書館】と改称され、地域文庫や読書感想画などの活動も盛んに行われていました。

また、昭和60年4月には、花岡公民館の改築に伴い旧花岡出張所2階に戻ります。利用者が年々増え、図書1万9427冊と紙芝居177巻を所蔵。

ある時の様子を著者はこんな感想を述べています。

「一利用者として見るに、寒い寒いと吹雪の中を腰曲げてでも生涯学習にやってくる老人たち、また、学校に行きたくないという登校拒否の子どもたちが、図書館の隅っこで静かに本をめくっている姿が見受けられ、何とも頼もしいなあと思う。」と。その時代の風景が見えてくるようです。

次第に建物の老築化が進み、平成16年4月休館のまま施設が取り壊され、その後、地区の強い要望もあり平成17年11月現在の地に開館となりました。

❖ 「鉱山文庫」

花岡には鉱山が栄えた頃、町民の生活や文化活動に大きな影響を与えた「鉱山文庫」がありました。戦後昭和22年、心の拠り所として、「鉱山会館」の一室に490冊の蔵書をもって、「鉱山文庫」が誕生し、読書週間行事や読書座談会、図書の充実にも力を入れました。昭和25年、利用者や資料の増加のため独立した建物が必要となり、閲覧室を備えた「鉱山文庫」が出来上がります。昭和27年には、夜間開館を週3回から5回に改めるほどの盛況ぶりで、蔵書も6万982冊と膨れ上がったため増設します。

文庫として誕生し、鉾山町の文化は榮えて町民の心に潤いを与えてくれました。

その後、活気に満ちていた鉾山の衰退の影響もあり、昭和40年「鉾山文庫」は「花矢図書館」に移管されました。

現在、花矢図書館のガラス戸棚の中に当時の資料の一部が歴史を越えて並んでいます。

郷土資料には、その時代の様子にタイムスリップできる魅力があります。館内での閲覧となっている資料が多いですが、ゆっくり時代をさかのぼってみてはいかがでしょうか。（花矢：小笠原）

❀ 来月のキッチンカーは

栗盛記念図書館へのキッチンカーも少しずつ定着してきたようです。7月は6日、15日（図書館まつりがあります！）、18日、27日とランダムな日程となっております。日がな一日図書館で過ごすお供にいかがですか？（保）